

第124回卒業礼拝学校長式辞

静岡英和女学院中学校・高等学校
校長 吉田 幸一



On behalf of all the staff of Shizuoka Eiwa Girls' Senior High School, I would like to extend our sincere congratulations you all. I would also like to congratulate your families.

Graduation from school may be compared to the launching of a ship that starts out on a voyage to face tests of the mind and sail through the waves of life. We have striven to help prepare you in every way, but the future lies in your hands, and you must await the tests and teachings of real experience. Now, you bear the responsibility not to lose what you have gained from your school and your teachers.

賤機山の桜も蕾をふくらませ、今花開こうとしているこの佳き日に、静岡英和女学院第124回卒業礼拝を迎えるにあたり、神様とともに心より賛美いたします。高等学校の課程を無事に修了し、この学び舎を巣立つ時が訪れました。

卒業生ならびに保護者の皆様に心よりお祝いを申し上げます。ご卒業誠にめでとうございます。また、学業成績最優秀の者、英語成績最優秀の者、そして6年間皆勤、精勤、3年間皆勤、精勤と1ヶ年皆勤の栄誉を称えられた46名と保護者の皆様に心よりお祝いを申し上げます。

静岡英和女学院中学校・高等学校で学んだ6年間あるいは高等学校の3年間の思い出を思い起こす時、様々な思い出が脳裏をよぎるのではないのでしょうか。純白のカラーとカフスを着けた真新しい制服に身を包み、保護者の方とこの礼拝堂に入室した時、フレイフレイ黄色と応援の喝采の中で、学年のチームワークを發揮した体育祭、古都京都を研究、散策した中学3年生の京都研修旅行、パスポートを片手に、緊張のあまり胸の鼓動を感じたカナダでの入国審査の時、友だ

ちの発表や演技を息をのむように見入った文化祭、イエス様のご生誕を生徒全員が厳かにそして清らかに祝福した学校クリスマス礼拝などを思う時、胸が熱くなるのではないのでしょうか。

私たちは、毎朝の礼拝における、讚美歌と聖書の御言葉をしっかり心に受留めることから、一日の始まりを迎え、そして神様に感謝する日々を重ねてきました。静岡英和女学院で学ぶ生徒、教え導く教職員そして保護者の皆様にとって、この礼拝堂は学院の象徴であり、心の礎として存在し続けています。神様に誠実に向き合うこのかけがえのない経験を心の糧として生涯生きてくれることと信じています。

保護者の皆様の前に座る105名の卒業生は、6年前あるいは3年前に比べて、立派に成長してくれました。その姿はまぶしいばかりの輝きがあります。この輝きは、いつも温かい愛情を注いでくださった保護者の皆様への感謝の輝きにほかなりません。ご来場の皆様方、この前途洋々たる105名に大きな拍手をもって、一人ひとりの成長の輝きにエールを贈りましょう。

この4月からは大学、短期大学、専門学校や進学準備など様々な進路に向かいます。1887年、今から遡ること128年前、「日本女性の教養を高めるためには女子教育が必要である」とのことから建学された本学院で学んだ生徒は、女性としての社会貢献と「愛と奉仕」の実践の機会を与えられます。どのような仕事に就き、どのような家庭を築いていく上でも、女性としての優しさ、思いやり、女性ならではの役割を認識することにより、本学院で培った高い教養とキリスト教精神に基づいた他者を思いやる気持ちを携えて、社会の中で活躍してほしいと願っています。正に、女性としての存在意義レゾン・デートルと人間としてのあり方をあらためて見つめ直してほしいと思います。卒業生の巣立ちを祝うように、桃の木に止まる小鳥たちは、「**You shall love your neighbor as yourself . God is my help**」とさえずり、そのさえずりがこだましています。

128年の歴史と伝統を矜持とする一方で、ある時は伝統が重荷に感じたこともあったことでしょう。しかし、この静岡の地にあって、128年間女子教育の先駆的リーディングスクールとして歩み続けてきた本学院の社会からの期待と信頼とを、卒業生の皆さんは良く理解し、在学当時から後輩たちに継承していく絆の強さを示してくれました。このことは、本学院の誇りであり、誉れであります。これからは、卒業生の一人として、長い歴史を通じて培った校風を引き継いでいく“英和ミSSIONナリー”としての役割を担い、“英和ファミリー”として静岡のみならず世界を舞台に活躍してくれるものと期待しています。

お祈り致します。本日ここに第124回の卒業礼拝を行うことが出来ましたことを神様に感謝いたします。卒業生に言祝ぎをもって送るとともに、保護者の皆様のご労苦に思いを馳せる時、胸が思わず熱くなるのを覚えます。学び舎

を巣立つ105名の女性たちの祝いの時を神様とともに賛美いたします。卒業生105名の今後の人生の歩みを片時も離れることなく御守りください。良き実りの時を迎えることができますようお導き願います。父と子と聖霊の祝福が皆さんの上にも豊かにありますように。

かたく結べる この友がき みめぐみの花 色はあせず

かおりを深く こころにしめ さちあれ友よ 主につかえて

この祈りを主イエス・キリストの御名により、御前に御捧げ致します。

アーメン